

平成24年度(第1回)「国有林モニターアンケート調査結果」の概要について

国有林を開かれた「国民の森林」とするために、国有林モニターにご登録いただいた皆様からご意見やご要望をお聴きするため、アンケート調査を実施しましたのでご紹介します。

いただきましたご意見については、国有林野の管理経営や広報活動の参考として、今後の近畿中国森林管理局の各種取り組みに活かしていきます。ご協力ありがとうございました。

1 調査時期	平成24年8月
2 調査対象者	国有林モニター 77名
3 調査方法	アンケート用紙の郵送による回答、HP上での回答
4 回収状況	アンケート依頼 77名 アンケートの回答 57名 アンケート回答率 74%
5 モニターの配置状況	管内、各府県ごとに、1～15名。

6 モニターの構成

区分	男性	女性	計
20代	2	2	4
30代	1	11	12
40代	7	9	16
50代	13	11	24
60代上	17	4	21
計	40	37	77

7 アンケート結果と意見(概要)

*表示されています割合(%)はアンケート回答者全体に対する割合です。

- (1) 国有林の所在地について、ご存知なかった方(40%)、森林の所有者を気にかけたことがなかった方(9%)を含めると、過半数の方が国有林の所在地をご存知なかったという結果となりました。
また、国有林の面積について、60%の方が思っていたより少ないと感じておられました。
- (2) 森林の管理については、61%の方が「国が行うべき」と回答いただき、「国が森林を一元管理することで、森林の公共性を十分に発揮させ、次世代に引き継ぐことが必要」とする内容のご意見を多くの方からいただきました。
- (3) 今後の国有林に期待する働きとして最も多かったのが、「水資源を蓄える働き」(63%)で、次いで「山崩れや洪水などの災害を防止する働き」(53%)、「貴重な野生動植物の生息の場としての働き」(47%)、「地球温暖化防止に貢献する働き」(42%)でした。
- (4) 国産材と輸入材の製品を購入する場合の価格面での比較として、1割高(50%)、3割高(26%)までであれば国産材の製品を選択するという結果となりました。
なお、同額であれば80%の方が国産材を選択していただく回答となりました。
- (5) 国産材が使用されている製品について、「自宅の柱などの構造物」(39%)、「家具」(35%)への回答が多く、一方で「わからない」という回答も26%ありました。
また、国産材の製品を使用される理由としては、「安心」、「品質・性能の良さ」への回答が多数を占めていました。
- (6) 将来の木材供給のあり方について、72%の方が「できるだけ国産材でまかなうべき」と回答いただきました。一方で「輸入材を増やすべき」と考えられている方は全くなかったです。
- (7) 今後の国産材の利用(住宅の構造用材・製紙用以外)について、7割の方が「住宅の内装材・外装材」、「住宅の家具」へ利用が増加することを期待されていました。
また、「暖房用のボイラーやストーブなどの燃料」、「バイオマス発電用の燃料」への利用についても、4割の方が期待されていました。
- (8) 公共施設等への木材利用について、「校舎などの学校施設(小学校・中学校)」(68%)、「医療機関や福祉施設」(54%)への利用を望ましいと回答いただいた方が過半数を占めていました。
- (9) 局広報誌「森のひろば」について関心や注目した記事として、国有林モニター会議、森林ボランティア活動及び森林環境教育へ高い関心とご意見が寄せられました。
- (10) 国有林モニターとなって、75%の方が「国有林を身近な存在として感じるようになった」とのご意見をいただき、同時に65%の方が「各種イベントに参加したり、自分で国有林を探して行ってみた」との回答がありました。
- (11) 情報の入手方法としては、「新聞・雑誌」(58%)、「インターネット」(54%)による利用が過半数を占めていました。